

OISCA

— 人と育む、地球といきる —



〔TOPIC〕 ～超一流の仕事がここにある～

タイ・ラノーンの
植林プロジェクトを訪ねて

MAY | 5
2023



地場産業としての養蚕から生糸立国へ！ ～ネグロス島から全国に広がる養蚕業～



OISCAの名称にある「I」は産業を意味する「Industrial」の頭文字です。地場産業の持続可能な発展を目指すことは、地域住民が安心して暮らせるふるさとづくりにつながるの思いがここに表れています。

オイスカがフィリピンのネグロス島で本格的に養蚕をスタートさせたのは1995年のこと。それまで砂糖産業に頼ってきたネグロス島は80年代、砂糖の国際価格の暴落により、「飢餓の島」と呼ばれるほどの貧困に直面していました。サトウキビプランテーションで働く賃金労働者を自立した農業者に育てていく必要性が高まる中、西ネグロス州政府からの協力要請を受けたのがきっかけでした。

オイスカでは日本の養蚕農家や専門家らの協力を得て、指導員をネグロス島に派遣し、技術移転に努めるとともに、研修生を日本に受け入

れ、技術者養成にも力を入れました。また、養蚕農家の育成にも注力し、良質な繭の生産ができるようになり、バゴ研修センター内に製糸工場を建て、安定的な生糸の生産を行っています。プロジェクトで生産される生糸は全国生産量の9割を占め、現在ではネグロスから他の州へと養蚕を普及すべく活動を続けています。



繭の選別、製糸や機織りなど、多くの工程で女性が働いている



繋がる生命

二宮尊徳翁は、「父母もその父母もわが身なり われを愛せよわれを敬せよ」と詠んでいます。その父母とは祖父母のことです。その祖父母にも両親があるわけですから、ずっとたどっていけば宇宙の根源につながる自分の生命。ご先祖様から代々伝えられた生命の最先端にいるのが、今ここにいる私たちです。自分のものであって、自分個人の生命ではない。だから「自分を慈しみなさい。両親を大事にしなさい」と言っているのです。

万葉集に、「信濃なる千曲の川の細石も 君し踏みてば玉と拾はむ」という歌があります。鹿児島県の知覧特攻平和会館を訪れた時に、この歌が浮かんできました。室内には特攻隊員の遺書が展示され、テレビの画面にはハンカチに包まれた小石が映っていました。それは、ある老夫婦が息子が最後に飛び立った地を訪れた時の話を伝えるものでした。緊張して歩を進めたその地には、記念塔が建っているだけ。周りには砂利が敷き詰められています。父親はせめてその石一つだけでも、と思ったのですが、黙って持ち帰るのも悪いとためらっていると、タクシーの運転手さんが「息子さんが踏まれたかもしれませんよ。持って行かれたら」と言ってくれたのです。おばあさんが震える手でハンカチを開くと、その小さな石が出てきました。小石は単なる石ではなかったのです。

昔は、両親や親族が亡くなると、その方が身に着けていたものや大事にしていたものを形見として分けていました。それには、亡くなった人の魂がこもっていて自分を見守ってくれる、と考えられていたのです。

道端の小石にさえそう思えるのですから、この世にある生きとし生けるものの生命はみなつながっている、と考えてすべてを尊重し、大切に思う。それがオイスカの心でもあります。



OISCA MAY 2023 | 5 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 オイスカ便り 富山県支部
- 08 TOPIC ～超一流の仕事がここにある～
タイ・ラノーンの植林プロジェクトを訪ねて
- 10 今月のこの人 オイスカ豊田推進協議会会長 梅村清春
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！ススめOISCA
- 14 INFORMATION ボランティア募集 ほか

What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持って活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

OISCAという名称の意味

O	rganization	機構	人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。
I	ndustrial	産業	
S	piritual	精神	
C	ultural	文化	
A	dvancement	促進	

国内 大阪マラソン 3年ぶりのチャリティランナーの参加 初の研修生ランナー2名も力走

2月26日に大阪マラソン2023が開催され、オイスカは8回目となるチャリティ寄附先団体として参加しました。

コロナ禍による大会の中止や一般ランナーの出走取りやめなどが続き、3年ぶりの通常開催となった今大会には、オイスカの活動に賛同するチャリティランナー34名がエントリー（昨年大会のランナーも含む）。その多くは、オイスカの法人会員、また「海岸林再生プロジェクト」を支援する企業や団体から手を挙げてくださった方々ですが、今回は、オイスカとしては初となる研修生2名の参加もあり、応援団も大いに盛り上がりました。

四国研修センターから参加したメキシコの研修生サライは、沿道からの声援に笑顔で応えながら走り、4時間2分でゴール。チャレンジを支えてくれたセンタースタッフや、寄附の形で応援してくださった四国支部の会員の皆さんに、「ありがとうの心でいっぱい」と感謝の気持ちを伝えました。

チャリティランナーが支援を呼びかけた寄附金のほか、テーマを選んだの全ランナーによる寄附金は、大会事務局によって取りまとめられ、「海岸林再生プロジェクト」への支援となります。



上／スタート前の集合写真
下／応援メッセージが書かれたハチマキをして走るサライ

国内 「海岸林再生プロジェクト」 次代を担う世代の参加を増やすため 主体的な若者の取り組みに期待

宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」では、東日本大震災から12年目となった3月、地元の若者たちがさまざまな形でプロジェクトに参加しました。



虹の松原（佐賀県）を視察

昨年12月に選ばれた海岸林リーダーらが主体となり、3月の1カ月間、名取駅の東西通路で写真展を開催。また、同3～5日には、新たに選ばれた海岸林リーダー3名が福岡県や佐賀県を訪れ、地域住民による海岸林の保全について学びを深めました。

コロナ禍の影響で、地元の学校やグループ単位でのボランティア参加が激減していま



溝切りをする名取北高野球部員

したが、3月11日には、宮城県名取北高校の野球部員ら12名が現場を訪れ、溝切り作業に参加し、汗を流しました。高校生や大学生による活動への参加を増やすことで、ここからの情報発信により、若年層へのプロジェクト理解が広がることを目指して取り組みを進めていきます。

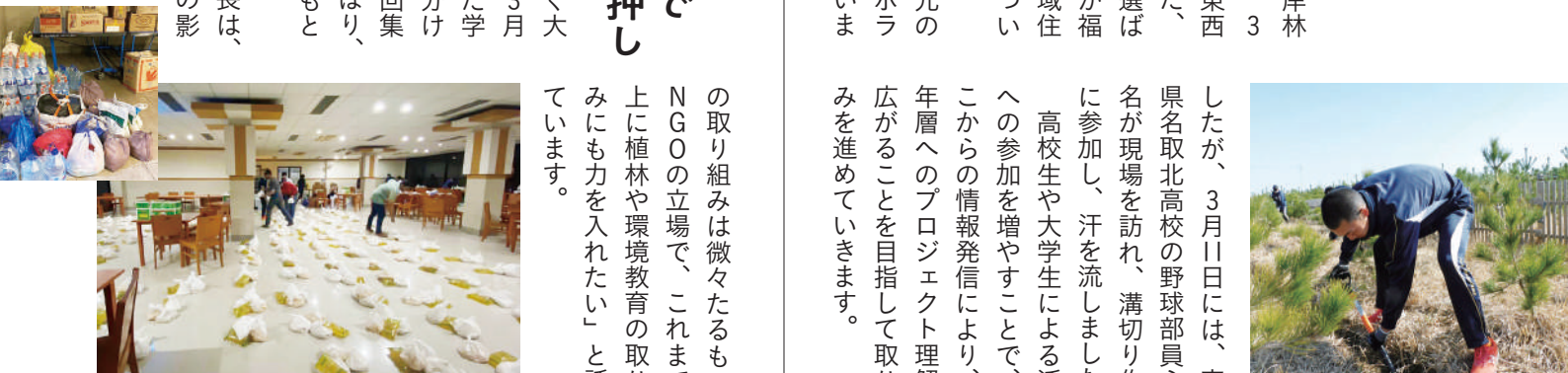
海外 オイスカ・パキスタン総局 洪水で深刻な物資不足に直面する被災地で 大学生による支援物資の回収・配布を後押し

パキスタンでは、昨年発生した大規模な洪水により、未だ多くの住民が避難所生活を余儀なくされています。特に被害の大きかったのは南部のシンド州やパンジャブ州などで、国土の約4割が水没し、食料をはじめ深刻な物資不足に直面しています。

オイスカ・パキスタン総局では、被災者支援のための食料品や衣類、日用品などを回

収するボランティアを広く大学生に呼びかけました。3月末には、呼びかけに応じた学生らと共に支援物資の仕分けや配布を行いました。今回集まった物資は10トンにのぼり、避難所生活を送る人々のもとに届けられました。

同総局の菅沼ちづる会長は、「今回の洪水は気候変動の影響と言わざるを得ないが、政府の温室効果ガス削減



集まった支援物資（上）を学生ボランティアらが配布用に仕分け



海外 日本NGO連携無償資金協力 タイでは3年目となる継続支援 ウズベキスタンでは新規支援が決定

現在、タイでは日本の外務省による日本NGO連携無償資金協力（以下、N連）の支援を受け、「ラノン県」のマングローブ林再生を通じた社会的弱者層生計向上プロジェクト」に取り組んでいます（プロジェクトの詳細は本誌8、9ページで紹介）。今年3年次を迎える同プロジェクトへのN連の支援が決定し、3月10日に在タイ日本大使館で、署名式が行われました。オイスカからは、春日智実駐在代表とオイスカ・タイ総局のアリ・チョアングリア会長が出席。梨田和也大使と春日駐在代表が署名しました。

また、中央アジアに位置するウズベキスタンの干上がってしまったアラル海でもN連の支援を受けて活動が本格的に始動。ウズベキスタン西部植林と薬草栽培による沙漠緑化及び生計向上プロジェクト」として、カウンターパートであるカラカルパクスタン農業大学内に事務所と育苗場を、また緑化を予定している地域に活動拠点を設け、資材倉庫なども整備する予定です。現地では天候不順の影響もあり、業務の遂行に難しさを抱えています。行政機関などと連携を深めながら活動を進めていきます。



左から梨田大使、アリ会長、春日駐在代表



カラカルパクスタン農業大学内育苗場予定地

国内 人材育成事業 14の国と地域から研修生・実習生が入所 新旧の研修生らの新たな歩みがスタート

2月から3月にかけて2022年度の研修生の修了式が各研修センターで行われ、10カ国19名がそれぞれの学び舎を巣立っていきました。研修生らは1年間の学びを総括し、帰国後のアクションプランを作成。研修生の多くは、自身が学んだ現地の研修センターで指導員や調整員としてオイスカ

スカ活動を担う人材となることを希望し、その計画を発表。中には、来日前に勤務していた職場に復帰し、日本での研修成果を活かした活躍を誓う研修生もいました。修了式では、これまで支えてくださった会員の皆さんの激励を受け、研修生は涙を浮かべながら別れを惜しんでいました。

研修生が帰国に向けた準備をする中、それぞれの研修センターには新年度の研修生が14の国と地域から21名が入所しました。短い間でしたが、新旧の研修生が一緒に生活する中で、さまざまな引き継ぎがなされた様子でした。

また、技能実習に関しては、コロナ禍で入国ができない状況



四国、西日本では研修生は着物や民族衣装で修了式に出席



日本の春を楽しむ新旧の研修生
(前列が22年度の研修生／中部日本)

現在、技能実習・特定技能制度の在り方に関する有識者会議が開かれています。今年の秋ごろには最終報告書が提出され、今後の方針が決まる予定です。オイスカも今後の制度変更に対応し、人材育成の一環として受け入れを継続していきます。



自動車整備会社で実習中のマレーシアの実習生。この日は、送り出し機関の担当者（中央、右から2人目）が実習の様子を視察した



植樹の様子(2022年6月11日)

富山県支部の歴史は古く、前身の富山県支局は、当時の県知事である吉田実氏が、オイスカの創立者・中野與之助氏の趣意に賛同し、本部の設立と時期を同じくして1961年に発足しています。

現在の支部の主な活動としては、立山連峰の麓、立山町天林地区での「緑の里山保全森づくり」活動、「緑の植林協力隊」派遣による海外での植

林や現地の人たちとの交流活動、活動報告会や自治体の環境イベントなどでの啓発普及活動があります。

天林地区での「緑の里山保全森づくり」活動は、今年で7年目になります(私は会長8年目です)。最初の年に植えたヤマザクラなどは5mを超え、栗の木も実をつけるようになりました。イノシシや雪の被害があるため、1.1haの植栽地に毎年100〜200本を子どもたちと一緒に植えています。植樹後には森林教室を開催し、植えた木の特徴や森の大切さを学んでもらっています。

「緑の植林協力隊」は、2001年から毎年東南アジア諸国を中心に派遣してきましたが、20〜22年度はコロナの影響で残念ながら中止としま

した。この活動は、日本のオイスカ研修センターで学んだ研修生たちが、その技術を活かして母国のために活躍している姿を見て交流できる機会であり、また、自分たちが以前植えた苗木が森になっているのを確認することもできます。今年度はこの国際交流の活動を再開したいと思っています。

毎年5月に開催している活動報告会では、この3年間、講演会後の懇親会が開催でき



チャリティゴルフコンペ(22年11月3日)では、会長がオイスカ事業などをPR



富山県支部 会長

久和 進

ず、会員同士の交流の場が少なくなっています。今年度は懇親会を開催し、交流を深めてもらおうと思っています。

オイスカは日本を代表するNGOであるにもかかわらず、県民にあまり知られていないため、認知度向上を目指し、昨年初めて「チャリティゴルフコンペ」を開催し、参加した方々にオイスカをPRしました。これからも、地域の皆さまとの交流、会員同士の交流、国際交流と、これまで出会った人々とのつながりを大切にし、森づくりや交流活動をたゆまず進めていきます。

支部概要

富山県支部は1975年に発足しましたが、前身の富山県支局は本部の設立と時期を同じくして61年に発足しています。68年にはアジア各国の人材育成の拠点として富山研修センターを開設。86年には富山県議会オイスカ議員連盟も発足し、支部と共に県内や海外での植林・交流活動などを実施しています。

現在会員数は134会員(法人:82会員、個人:52会員)。県内の森づくり活動や海外での植林・交流活動などを通じて、子どもたちへの環境教育や、国際交流に取り組んでいます。

オイスカ 便り

全国の支部や支援組織を
ピックアップして紹介します

今回は

富山県支部

地域の森づくりと国際交流活動を たゆまず進める

富山といえば
立山連峰!

近況

REPORT

新たなチャリティ活動で オイスカをPR

2020、21年度と、コロナの影響で、海外での植林への参加はもちろん中止、県内での森づくりも人数制限・行動制限をしながらの活動となり、21年度の活動報告会での

講演会は、『松がつなぐあした』の著者・小林省太氏にリモート講演をお願いしました。

コロナ3年目となった22年度には、新たな活動として、9月に「名取の海岸林視察・ボランティア活動」、11月に「チャリティゴルフコンペ」を計画し、会員に限らず経済団体などにも広く参加を募って実施しました。

9月23日の朝、富山をバスで出発し、16時過ぎに名取に着き、「海岸林再生プロジェクト」を担当する吉田俊通部長に海岸林視察の案内をしていただきました。東日本大震災の被災地訪問が初めての参加者からは、「自然の恐ろしさを痛感。またその恵みの大きさに感動した」といった感想が聞かれました。

翌日は午前中だけの作業となりましたが、参加者15名と小林氏にも参加していただき、地元の方々に教えてもらいながらツルマメの抜き取りやクズの刈り取りをしました。広大なクロマツの植栽地は圧巻で、このプロジェクトに参加



初開催のチャリティゴルフコンペ(22年11月3日)

されてきた関係者・ボランティアの方々の復興への強い思いを感じました。

11月3日は秋晴れのゴルフ日和となり、支部で初めて開催する「チャリティゴルフコンペ」には、会員の方々と富山県・石川県の企業の皆さまも含めて46名にご参加いただきました。昼食後に久和会長からオイスカの事業や富山県支部の取り組み、沙漠化防止プロジェクトについての説明があり、参加者の方々にオイスカへの理解を深めていただきました。募金額は10万円となりました。「沙漠化防止プロジェクト」へ寄附しました。文化の日恒例行事として定着させていきたいと思っています。

富山県内、どこから見ても絶景！立山連峰

富山といえば、「寒ブリ」「ます寿司」「ホタルイカ」「シロエビ」「ベニズワイガニ」とおいしいものが思い浮かぶと思います。でも、“冠雪した立山連峰”の美しさは、地元民が見惚れてしまうくらい魅惑的な絶景です（立山は、富士山、白山と共に、日本三霊山のひとつです）。

毎年10月中旬に初冠雪が観測されますが、「白くなったなあ」と確認できるのは11月下旬になってからです。冠雪した立山連峰は5月頃まで見られますが、オススメの時期は、空気が澄んでいる11月下旬～3月頃です。

写真は、富山市の呉羽山くれはやまから撮影したもの。立山連峰と富山市街・新幹線の迫力ある景色です。また、高岡市の雨晴海岸あまはらしかいがしから見る立山連峰は、富山湾に浮かぶように連なります。富山県支部のホームページ（<https://oisca.org/toyama/>）で、その写真がご覧いただけます。

富山県支部事務局長 宮崎明代

おらが
自慢！

呉羽山からの
立山連峰！



地域の生計向上に 直結させる植林

「オイスカ」ただ植林をする団体」とのイメージを一部では持たれているように感じています。しかし、タイでは、30年以上緑化を続けてきた北部・チェンライ県のプロジェクトに続き、南部のラノーン県での活動も、現地政府が掲げる政策と、オイスカ10ヵ年計画のコンセプト「生態系およびビジネスセクターを活用した課題解決（EBS&BS）※」に沿って、住民の生活・生計向上に真正面から取り組む「地域開発プロジェクト」そのものに大きく飛躍しています。

※EBS: Eco-System based solution（自然を守り、育み、その力を活用した課題解決）
BBS: Business based Solution（ビジネスセクターとのパートナーシップとソーシャルビジネスによる課題解決）

20年で取り組みの 土台は盤石に

ラノーン県では99年から、タイ政府天然資源環境省と共に、「疎林」となってしまったマングローブ林の再生を開始しました。2004年のイン



2007年、インド洋大津波から3年経っても漁獲高は30分の1に落ち込んだままだった（1回の漁で捕れる魚の量の比較写真。右の赤いかご2つが津波前、中央の小さなかご1つが07年当時）

ド洋大津波では、再生途中のマングローブ林が防災・減災機能を果たしたことで、プーケットや隣接するパンガー県のような人的被害は発生せず、その重要性の理解につながりました。しかし、大量の砂の流入による海中環境の変化から、漁獲量が激減、若年層の漁業離れに直面しました。そうした問題を抱えながらも、日本国内の法人会員を中心とする多くの方々からのご支援で活動を継続してきた結果、2000ha以上の再生に成功し、若者が都会から戻ってくるほどに漁獲量も回復。タイ国内でも比類のない成功と評価され、現在は「世界自然遺産」登録を目指すまでの森となっていることが、表紙

の写真や下の写真からお分かりいただけると思います。ただ、現在はまだ、海側の再生がおおむね完了した段階で、内陸側には、マングローブ林へと再生すべき場所ながら、技術的にもコスト的にも難易度が高いエリアが虫食い状に点在しています。例えば、かつて錫の採掘やエビの養殖をしていた跡地の中には、不法占拠されている場所もあり、現在も法的解決に向けて時間のかかる努力が続けられています。

地域開発プロジェクトに飛躍

21年には、外務省「日本NGO連携無償資金協力」の支援を受けて、「タイ・ラノーン県のマングローブ林再生を通じて社会的弱者層生計向上プロジェクト」（以下、N連プロジェクト）が、3つの島と本土1村を対象に、3ヵ年計画でスタート。マングローブ林の再生以外にもさまざまな生計向上のための活動を、住民同士の話し合いによって進めてきました。これまでは各世帯がそれぞれに取り組んでいたことを、組織化・グループ

オイスカは、1980年に植林活動をスタートさせ、「ひたむきに植林」を続けたことで、近年は植林プロジェクトのあり方が住民の生活向上にも直結しています。そのモデルといえる取り組みが、タイ南部に位置するラノーン県でも進んでいます。2月に同地を訪問した本部・啓発普及部の吉田俊通がレポートします。

〔TOPIC〕

～超一流の仕事がここにある～

タイ・ラノーンの 植林プロジェクトを訪ねて

N連プロジェクトの主な内容

- マングローブ林の再生
⇒ 育苗、植林、管理作業など
- マングローブ由来の商品開発および製造、販売
⇒ お茶、石けん、塗り薬、染め物など
- エコツーリズム
⇒ マングローブ林内をカヌーで散策
- 水産物加工
⇒ エビみそ(アミエビのペースト調味料)、干物など
- 漁具貸出組合の組織化
- ヤギ飼育能力向上とグループ化
- 海洋ゴミの回収と換金施策



4拠点の各グループの会合は合計数百回にのぼる



数々のマングローブ由来新製品を紹介するンガオ村女性リーダー

化・複合経営化することで、収入の年間平準化を図り、各世帯収入の10%アップを目標としています。コロナ禍真っ只中となった初年度は、ロッ

クダウンによりスタッフが島に入れない状況に見舞われるなどの困難もありましたが、当初の計画を順調に満たす成果を上げています。文字にす

るのは簡単ですが、話し合いを避けることなく、根気よく地域住民とコミュニケーションを図ってきたオイスカスタッフと政府側の担当者の地道な努力なしには達成できない目標です。共に現地視察を行った専門家の見原隆明氏が、「死に物狂いの努力」と評したのが印象的でした。

しかし、N連プロジェクトの成功は、この3年で成し得たものではありません。99年からの活動の中でノウハウを蓄積し、行政や住民との信頼関係を築き、それを発展させることでマングローブ植林にとどまらない「地域開発プロジェクト」の実施が可能となったのです。

参加住民の訪日研修開催

今回の現地視察では、N連プロジェクトを訪日研修生OBが支えていることを知り、うれしく思いました。そして、ニュース(5ページ)でも紹介されている通り、N連プロジェクトの3年目継続の調印式が、3月10日に在タイ日本大使館で行われ、翌11日から最終年度が始まりました。私



N連プロジェクトでは、オイスカの訪日研修生OBもスタッフとして活躍中。上／政府職員としてオイスカとともにマングローブ再生にあたるブーン氏(09年四国研修センター) 下／見原隆明専門家(左)と談笑するエーク氏(右／03・08年四国研修センター)

が担当する宮城県名取市で進む「海岸林再生プロジェクト」とオイスカ・タイ総局が取り組む活動は、互いに足を運び合い、励まし合いながらここまで続けてきました。3月11日を開始日としているのにも春日智実駐在代表や総局の皆さんの思いを感じます。

さらに、今年はN連プロジェクトの一環として、5月12〜16日に、対象4村の住民ら22名による訪日研修を、「海岸林再生プロジェクト」で受け入れることになっています。

大津波の被災地であり、漁業が盛んで、オイスカが大規模造林を実施しているなど共通点の多い名取市で、しっかりと

学びの場を提供し、N連プロジェクト終了後も、住民らが継続して活動していけるよう、後押ししたいと考えています。一行の帰国直前となる16日(火)夕方には、22名が語るオンラインのトークイベントを予定しています(14ページ参照)。多くの方に聞いていただき、ラノンの活動の発展を応援してもらえたらうれしいです。

<https://oisca.org/events/230516/>

詳細・お申し込みはこちらをご覧ください



今月のこの人

梅村 清春

オイスカ豊田推進協議会 会長



豊田の地から
オイスカを
応援！

継続した支援と人をつなぐ活動で オイスカの発展を支えたい

梅村さんは2003年の入会以降、中部日本研修センターへの支援をはじめとするオイスカ活動に精力的に取り組まれ、昨年には豊田推進協議会（以下、推協）の会長に就任されました。多様な国の人々が、「オイスカ精神」のもとに互いに協力する在り方を「リトルワールド」と表現し、こうしたオイスカを支えたいと熱く語る梅村さんに、これまでの経験や今後の展望について聞きました。

——どのような経緯で入会に至ったのでしょうか

私は豊田市石野地区の東広瀬町に

住んでいて、すぐ隣の勘八町に中部日本研修センター（以下、センター）があります。入会当時、教員を務めながら、地区の広報委員をしていた折、コミュニティ新聞の取材でセンターを訪れたことがきっかけです。元々オイスカの名前は知っていました。この時初めて、オイスカの理念やセンターの研修に触れました。中でも印象的だったのは、さまざまな国の研修生が和気あいあいと共同生活をしていたことです。みんなが笑顔

ウズベキスタンでの
植林に参加！



で生き生きと研修に打ち込む姿に驚くとともに、非常に感銘を受け、入会を決めました。

私は22歳の頃から現在まで学校教育に長く携わっていますから、人材の育成に重きを置いて活動する教育機関としてのオイスカに、自分の仕事と通じるところを感じたのかもしれない。

——教育者の立場から見て、オイスカの研修はどのように映りましたか

オイスカの研修で特徴的なのは、やはり規律。規律とは、感謝の心だと思っています。食事や入浴ができること、生かされていることへの感謝の気持ちを、規律正しくあることによって表しているのです。それから、研修生は皆自分の国に誇りを持って日本に来ています。自分の国が好きだからこそ、国のために活躍できる人になろうという強い気持ちがあります。現在の日本の学校教育では、そうした愛国心を持つ子どもたちの育成には、十分でないところがあると感じています。やはり母国に誇りを持って、愛する気持ちがなければ、国は滅びていくと思うのです。

日本人は本来、公共心や公德心、勤勉で誠実といった日本精神を持っていました。オイスカは、世界から研修生を受け入れて、技術や知識だけで



推協では「海岸林再生プロジェクト」や内モンゴルなどでのボランティアにも毎年継続して取り組んでいる

なく、規律を通じてそうした精神性を伝えていきます。そして彼らが国に戻り、母国で活躍しているのです。日本人より日本人らしい精神を持った人材が育っていると思いました。センターでは、新入社員研修など日本の青年育成にも取り組んでいます。日本の学校教育にもぜひ取り入れたいことだと考えます。

——これまでのオイスカ活動で、どんなことが印象に残っていますか

オイスカデーや支部・センターの周年行事など、イベントがある度に参加してきました。

中でも、推協が19年に開催した「第1回豊田オイスカデー」は、トヨタスタジアム西イベント広場を会場に、3500人の来場者で賑わいました。多くの人にオイスカを知っていただくことができ、大きな成果がありました。推協の幹事会で、綿密な計画

とある日の。

梅村会長の1日

23年3月。この日は豊田推協の農業ボランティア！
推協メンバーを中心に17人が集まり、研修生や技能
実習生、スタッフと共に汗を流しました。

08:50 開始の挨拶

中部日本研修センターの
玄関前に集合し、梅村会
長の挨拶でボランティア
がスタート。

今日も頑張り
ましょう！



09:00 作業開始

この日は、2グループに
分かれて水稻の種もみの
播種とナスの苗の移植作
業を行いました。

もみ殻と土のトレイは
重くて運搬は重労働！



11:30 作業終了

うるち米300枚、もち米
58枚の播種、ナスの移
植945本の作業が完了し
ました！

皆で記念撮影



12:00 昼食

研修センターの食堂で
揃って昼食をいただきました。
本日のメニューは
推協の女性メンバーによ
る五平餅。



焼き台は梅村会長から
お借りしました♡



13:00 終わりの挨拶

センターからのお知らせや次回の作業の
お願いをして、ボランティアは終了。

皆さんお疲れさまでした！

を立てて準備を進め、当日も班に分かれて運営をしました。準備は大変でしたが、オイスカの発展につながればという思いで奔走し、トヨタスタジアムでイベントができたことは、一番記憶に残っています。

— 今後の展望をお聞かせください —

オイスカは21年に60周年を迎え、10カ年計画を策定しました。センターも計画を立て、検証を重ねながら取り組んでいます。私は計画の実現をサポートするのも推協の役割だと考えています。昨年度はセンターの農業ボランティアを10回にわたり実施し、延べ211人が参加しました。センターの人手不足と農業収入増加のため、会員以外のボランティアも

受け入れることで、体験を通じたオイスカの周知にもつながっています。また会員増強のために、新しい人特に若い人を巻き込めるよう、青年部の立ち上げも計画しています。これからも末永くオイスカの発展をサポートできるよう、センターや推協の皆さんと共に引き続き活動を進めて参ります。

梅村 清春（うめむら きよはる）
1954年生まれ。公立小中学校教諭、愛知県教育委員会豊田加茂教育事務所指導主事などを経て、公立中学校校長を歴任。14年度から愛知大学講師・名古屋教職課程センター事業主任として現在に至る。オイスカ愛知県支部副会長・豊田推協協議会会長、愛知県倫理法人会研修委員長など幅広く活躍中。

オイスカ担当者からひとこと



オイスカ中部日本
研修センター 所長

小杉 裕一郎

梅村会長は、中学校校長を経て、現在、愛知大学の名古屋教職課程センターに籍を置き、教員を目指す学生の指導に当たられています。教員採用試験は難しく狭き門と言われており、教育学部をもつ大学でも合格率は平均50%なんだそう。愛知大学に教育学部はありませんが、なんと76%の合格率で学生を教育の道へ導いておられます。

梅村会長の学生への指導は、試験に合格するための技術的なことだけではなく、心を育て養うことに重きを置かれており、先生の知見に触れた学生は「人間力」をしっかり備えた教師として、学校現場で活躍しています。まさにオイスカの研修の考え方と合致しています。

オイスカでは、愛知県支部副会長として光岡保之会長を支え、豊田推協会長として230名の会員と共にオイスカ活動を推進されています。昨年度には、農業ボランティアの実施や海岸林ボランティアツアー、アジアの情勢を学ぶグローバル学習会の開催など、年間を通じてさまざまな活動を行いました。勢いの止まらない“梅村”推協から目が離せません！

歴史さんぽ

Vol.6

タイと日本の森づくりが生んだ絆の証
上野動物園のアジアゾウ

当時アティは5歳(右)、ウタイは3歳。プラヤット氏は「ゾウ使い」の一人として両国の飼育員同士の通訳、ゾウへの日本語による調教のサポート役として活躍



2002年

日本に到着したばかりの2頭とプラヤット氏(現オイスカ・タイ事務局長／中央)



ウタイ(左)と子どものアルン

2023年

2002年10月、2頭のアジアゾウが、タイからたくさんの想いを背負い、上野動物園にやってきました。名前は、アティ（太陽）とウタイ（日の出）。

ところが、どうして贈られたのか、その経緯は日本であまり知られていません。それは、オイスカがタイで活動を開始した1975年まで遡ります。

当時、オイスカは東北部スリン県において農業技術指導を開始。しかし、伐採などにより森林が失われた土地での農業は難しく、80年に環境回復のため植林事業をスタートしました。それからおよそ20年間、日本から延べ1200人を超えるボランティアが足を運び、木を植えるとともに、スリン県との絆

を育みました。そして2002年、オイスカの長年の緑化活動へのお礼として、当時の同県知事がゾウの寄贈を決定し、愛子内親王ご生誕（01年）を機会に、「日本国民への友好のしるし」として日本に贈られることになったのです。

アティは20年8月に結核で若くして死んでしまいましたが、同10月には2頭の子もであるアルン（暁）が誕生し、すくすくと成長しています。

アティとウタイの名前は、“日出ずる国”にちなんでオイスカ・タイ総局が付けたものです。アルンも、新たな日タイの絆の象徴として、夜明けの太陽のように明るい希望を両国民に届ける存在となることを期待しています。

写真から伝わる
さまざまな思いに
フォーカス！



この日さばいたのは
アライグマ！



\\ 関係プレーで作る ジビエ料理 //

西日本研修センターでたびたび食卓を賑わすシシ肉。自然豊かなエリアに位置するため、農場はハクビシンやアライグマといった野生動物に荒らされる被害にも遭遇します。中でも厄介なイノシシは、地元の猟友会の方が仕留めて、センターに持ってきてくれるのです。イノシシのほかにもシカ肉が食卓に並ぶのも珍しいことではありません。

野生の動物は臭みがあるのではないかと、硬いのではないかとよく聞かれますが、スーパーで買う肉とほとんど同じです。もちろん多少の臭みはありますが、そこは食堂スタッフの腕の見せ所。「そこらへんで売っている牛肉よりうまい」と話すスタッフもい

るほどのおいしさです。写真のシシ汁は「フィリピン人スタッフが上手にさばき、その肉を食堂スタッフがカットして、センターで育てた無農薬野菜を存分に使う、関係プレーが光る一品！」とのこと。

交流会などで登場すること多いジビエ料理。

機会があればぜひ食べてみてください！



BOOK

お！ススめ
OISCA

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススメ」をご紹介します！

小説家・辻村深月

『かがみの孤城』（ポプラ社／1,800円税別）は、コミックス化、映画化もしています！



ミステリー、青春、恋愛、ホラーなど、さまざまなジャンルの小説を書く多才な作家さん。登場人物の心理描写がとても繊細で、共感性の高い作品ばかりです。複数の出版社から出版されていますが、講談社からの作品は、世界観や登場人物がリンクするものが多いので、そういった部分も楽しんでもらえると思います。映像化された作品も多数あるので、小説が苦手な方もぜひ！（本部A）

東京海上日動火災保険(株) 新CMが完成しました！

オイスカの特別法人会員であり、マングローブ植林プロジェクトや「海岸林再生プロジェクト」へのご支援をくださっている東京海上日動火災保険(株)の新しいテレビCMが完成しました。同社が未来の安心・安全な社会づくりに向けて、全国で進めているさまざまな取り組みを紹介する「安心・安全キャラバン」シリーズの中で、「海岸林再生プロジェクト」が取り上げられています。

特設サイトで視聴できるウェブ動画には、「名取市海岸林再生の会」の鈴木英二会長やボランティアの皆さんのインタビューなども収録されています。ぜひご覧ください。

<http://www.tokionarine-nichido.co.jp/tsu-ichi/>



トークイベント2023春 参加者募集

タイ南部ラノン県で進むマングローブ林の再生・保全と地域住民の収入向上プロジェクト（本誌8・9ページにて紹介）に参加する活動地のリーダーおよび、その指導にあたる行政の担当者らを対象にした日本での視察研修が5月中旬に行われます。その最終日の16日、帰国を前にした一行によるトークイベント「マングローブとともに豊かに生きる ―対話が解決へ導く、タイ漁村22人の声―」をオンラインで開催します。

マングローブ林の再生により沿岸環境の改善を図りながら、



プロジェクトで石けんを作る女性たち。視察研修の参加者の約半数を女性が占める

新たな特産品づくりによって生計向上を目指す取り組みについて紹介します。

■日時

5月16日(火)
18時30分～20時30分

<https://oisca.org/events/230516/>

詳細・お申し込み
はこちらを
ご覧ください



ウクライナに支援の手を！ ナターシャ・グジー チャリティーコンサート

オイスカ開発教育専門学校では、日本での自立を目指すウクライナからの避難民を受け入れています。現在同校で学ぶ4人の女性、また今後受け入れる避難民支援のためのチャリティーコンサートを開催します。

ウクライナの歌姫ナターシャ・グジーさんによる歌声と、民族楽器バンドウラの響きをお楽しみください。

■日時

5月19日(金) 18時

■会場

浜松市福祉交流センターホール
(静岡県浜松市
中区成子町140-8)

■料金 3千円 ■主催 学校法人中野学園



現在オイスカ開発教育専門学校で学ぶ4名のウクライナ女性

<https://www.oisca.ac.jp/news/5519/>

詳細・お申し込み
はこちらを
ご覧ください



フィリピン植林フォーラム26th 国際ボランティアツアー 参加者募集

関西研修センターでは、フィリピン植林フォーラムを企画。コロナ禍以降3年ぶりの実施です。

フィリピン北部のアブラ州などでの植林をはじめ、アブラ州農業研修センターでの宿、子供



現地では地域住民らと共に植林に参加

詳細・お申し込み
はこちらを
ご覧ください



■お問い合わせ・お申込み
(株)ヒットカンパニーリミテッド
本社営業所
TEL (078) 392-2151
E-mail s-yamasaki@e-hit.co.jp
<https://oisca.org/events/231071014/>

の森」計画実施校訪問など充実した国際協力・交流を体験。アブラ州知事表敬訪問や世界遺産にも登録されているピガンの歴史都市訪問も予定されています。久しぶりの海外ボランティアツアーです。ぜひ奮ってご参加ください。

■日程

10月7日(土)～14日(土)

■定員 20名

■参加資格 高校生(15歳以上)

■旅行代金 25万5千円

■締め切り

6月30日(金) 15時まで

ウズベキスタン スタディツアー 参加者募集

ウズベキスタンで進む沙漠化
防止プロジェクトでは、今年度
新たに日本の外務省のNGO連
携無償資金協力を得て、アラ
ル海に活動拠点を構え、活動を本
格化させる予定です。

全国の会員、支援者の皆さん
にウズベキスタンを知り、アラ
ル海での取り組みへの理解を深
めてもらうためのスタディツア
ーを実施します。日本から遠く
離れた中央アジアの地で、日本
人が築いてきたウズベキスタン
の人々との絆に触れる感動もあ
れば、沙漠化したアラル海の湖
底に立つことで自然の厳しさを
目の当たりにする体験も。プロ
ジェクトを成功に導くためのお
仲間になってくださる方の参加
をお待ちしています。

■日程

10月22日(日)～27日(木)

■定員

30名

■旅行代金

約40万円

[https://oisca.org/
events/2310221027/](https://oisca.org/events/2310221027/)

詳細・お申し込み
はこちらを
ご覧ください



ご支援ありがとうございます！

新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通
り。(1月2日～3月30日までの間、
本部登録済み。順不同、敬称略)

■維持法人

【愛知県】株式会社 enable /
ベルウッド防水 / 株式会社アヴァ
ンセ / 株式会社 YMD

■維持個人

【愛知県】藤井真寿美 / 株式会社デ
イライト建設 / 鈴木昌秋 / 鳥居忠
良 / 川原洋子 / 後藤勇太 / 深津貴
弘 / 香川県 加世田和美 / 福岡県 田
代恵子 / 佐賀県 宮原真一 / 西久保
弘克

寄附

1月20日～2月28日までにいた
いた寄附は次の通り。(順不同、敬
称略)

●全国電力関連産業労働組合総連
合 / 「子供の森」計画と海外開発協
力事業に合せて510万円

●九州電力株式会社 / 西日本研修
センターワンコイン・サポートプ
ログラムを通じて人材育成事業に
246万5082円

●ロクシタンジャパン株式会社
／富士山の森づくり活動に81万
2800円

●ネクスタグループ(ネクスタ株
式会社・ネクスタラップ株式会社
・ネクスタパッケージ株式会社)
／啓発普及事業と「海岸林再生プ
ロジェクト」と「子供の森」計画に
合せて120万6321円

●デリシヤス株式会社 / 「子供の
森」計画に74万756円

●積水化学労働組合 / 「海岸林再
生プロジェクト」に45万円

●仙台トヨベツ株式会社 / 「海
岸林再生プロジェクト」に29万
3875円

●リタ・マークス株式会社 / 海外
開発協力事業に20万400円

●株式会社若田産業グループホー
ルディングス / 人材育成事業に20
万円

●株式会社 Hacoa / 「子供の
森」計画に19万7580円

●池田浩二(岡山県) / 「子供の森」
計画に10万円

●九州電力労働組合 / 海外開発協
力事業に65万円

海外赴任



2月26日、春日
智実タイ駐在代
表がバンコク事
務所へ再赴任し
ました



2月28日、加納
達也インドネシ
ア駐在員がスカ
プミ研修センタ
ーに赴任しました



4月2日、高木
美智代氏が外務
省「日本NGO
連携無償資金協
力」による「ラノ
ーン県のマングローブ林再生を通
じた社会的弱者層生計向上プロジ
ェクト」調整業務のため、タイ・
ラノーン県に再赴任しました

編集後記

タイ・ラノーン県からの視察研修を盛り
上げるべく、予定していた内容を差し替
え、同地で進むプロジェクトについて紹
介しました。企業の社会貢献の取り組み
に関するトピックは次号の掲載とさせて
いただきます。(林)

次号予告

OISCA
JULY | 7
2023

《TOPIC》

企業が目指す
社会貢献の今(仮)

OISCA 5月号 定価160円
発行人 / 中野悦子
発行所 / 公益財団法人オイスカ
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
編集: OISCA / 林久美子 倉本有沙
アートディレクション / 土肥幹人
デザイン / 土肥幹人 坂巻貴行
印刷・製本 / 株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラスト
などの無断転載を禁じます。



今月の表紙写真

Photo by Prayat Savangsookh



大事に育ててきたマン
グローブの森は村の財
産です。自然災害から
村を守り、その恵み
によって生活を豊かにし、
村に賑わいを取り戻し
ています。世界遺産登
録を目指すこの森が、
世界の財産になる日も
近いかもしれません。
(タイ・ラノーン県)

理念 — 人と育む、地球といきる —

Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

Spirit

Visionを達成するために、
私たち一人ひとりが
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一步步積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

● 特別会員（年額1口）	法人／10万円	個人／5万円
● 維持会員（年額1口）	法人／4万円	個人／2万円
● マンスリーサポーター	個人／月々2,000円～	

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。
※新入会年度は、入会によって納入金額が異なります。

● 「子供の森」計画支援金（年額1口）	個人・法人／5,000円
---------------------	--------------

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。
※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは



公益財団法人
オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111
E-mail oisca@oisca.org
<https://oisca.org/>

国内研修センター

中部日本研修センター	〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103
関西研修センター	〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901
四国研修センター	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本研修センター	〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

国内支部

北海道支部	〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラリス生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685
宮城県支部	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-265-3350
首都圏支部	〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財) オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111
山梨県支部	〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951
長野県支部	〒380-0838 長野市泉町584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529
富山県支部	〒939-2226 富山市下夕林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128
静岡県支部	〒431-1115 浜松市西区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981
愛知県支部	〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103
岐阜県支部	〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地 太平洋工業㈱本社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419
関西支部	〒541-0058 大阪府中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎06-6244-2366 ☎06-6244-9422
広島県支部	〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギアル & B/パートナーズ内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706
四国支部	〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334
西日本支部	〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

OISCA NETWORK

福 島	〒963-0534 郡山市日和田町字大窪50-8 (南根本産業内) ☎024-958-2643 ☎024-958-3741
茨 城	〒311-0113 那珂市中央852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539
神奈川	〒231-0003 横浜市中区北仲通3-33 関内フューチャーセンター内 ☎080-5016-2584
三 重	〒510-0958 三重県四日市市小古曽1-1-7 中村建設㈱内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745
奈 良	〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277
岡 山	〒700-0011 岡山市北区宇南町2-6-11 PORTA美容室内 ☎086-252-3027 ☎086-252-3027
徳 島	〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力㈱徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511
愛 媛	〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682
高 知	〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572
佐 賀	〒840-0826 佐賀市白土2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368
長 崎	〒858-0908 佐世保市光町109 ㈱堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069
熊 本	〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162
大 分	〒870-0002 大分市浜の市1-3-7 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040
宮 崎	〒880-0843 宮崎市下原町227-6 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673
鹿児島	〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833
沖 縄	〒902-0077 沖縄県那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881